資料2-5



令和8年度の取り組みについて

～第5回トキと共生する里地づくりネットワーク協議会～

令和8年11月17日
秋田県　にかほ市

資料2-5

【取り組み1】
佐渡視察

令和8年9月14日（月）～9月16日（水）

■目的

にかほ市は、令和４年度に環境省より「トキと共生する里地づくり取組地域」に選定された。以来、トキが飛来するまちを目指し、地域農業の生産力維持と、田んぼの生物多様性を守る環境保全型農業を推進している。

今年度においては、水田周辺の生態系を保護するための江の設置を計画しており、広大な農地や田園、鳥海山麓の大自然を活かすべく、トキのえさ場や営巣場所となって、にかほ市にトキが舞い降りる可能性を探る。

本視察は、トキと共生する里地づくり事業の参考として、世界農業遺産の先進地であり、トキが好む自然環境が整備されている佐渡市を訪れ、その取り組みや日常風景に存在するトキを間近で見るもの。また、トキの歴史と野生復帰までのあゆみ、飼育繁殖・順化訓練等について学ぶことを目的とする。

■訪問先

佐渡金山 ／ JA佐渡 ／ (有)齋藤農園 ／トキの森公園 ／

環境省佐渡トキ保護センター野生復帰ステーション ～ トキのテラス

佐渡市内棚田～小倉千枚田～岩首昇竜棚田

■同行者

秋田県立大学 准教授 ／日本鳥類保護連盟　理事／

市内有機農家 ／ 鳥海山・飛島ジオパーク 研究員／

市農林水産課トキ事業担当者

１日目
佐渡金山～JA佐渡

■佐渡金山

相川地区（大佐渡）にある佐渡金山の採掘用水路は農業用水路や棚田に転用され、現在も地域で活用されている。佐渡金山の坑道内は非常に寒く、年間を通して１０℃前後に保たれている。

■JA佐渡

①佐渡市が認証するブランド米「朱鷺と暮らす郷」

生産要件と販売条件について知る。農家さんが最も取り組みやすいのは冬水田んぼ。トキは脚が短いため、あまり深くためる必要がなく、轍をつくる程度でよい。取り組み内容は自己申告ではなく、市とJA、農業共済が対象のほ場を全て回り、目視で確認している。栽培田は、除草剤が散布されていないため、縁取りのような緑色の畦畔が特徴。

②JA佐渡米

ネオニコチノイド系農薬を使用しないことが要件のひとつ。ネオニコチノイドは７成分あり、ミツバチの大量死や赤とんぼの羽化阻害に影響を与える。

資料2-5

2日目
(有)齋藤農園

■(有)齋藤農園

齋藤農園代表取締役の齋藤真一郎氏は、２年前ににかほ市と日本鳥類保護連盟が主催したシンポジウムにおいて、基調講演をしてくださった有機農家。

▸齋藤さんより
佐渡の米作りの平均年齢は70代、若手もいるが、トキに配慮した農業を続ける者はあまり見受けられない。近年では乾田直播も増えており、除草剤を使い、水がない状態を生むこの農法が広まると、トキの生息は難しいだろう。トキは佐渡にとって日常の鳥。これまでの取り組みが続いているからこの光景が見られる。
▸質問
トキの生息地保護について、一部の熱心な人や少数派の有機農家から、どのように波及していけばいいと思いますか？
▸回答
やはり行政がリーダーとなるべき。農家、JA、研究者、市民、学校、土地改良区、いろいろな立場の人が関わる。協調、連携、協力することが大事。行政の指揮が大事で必要。

フルーツ＆カフェ さいとうさんにてお話を伺った後、自然栽培を実施しているほ場を視察した。

シオカラトンボやイナゴやバッタが複数飛び交っていた。予定よりも大幅に長居し、合計２時間半以上滞在させていただいた。

道中、トキがねぐらで休む姿、群れになって飛ぶ姿、田んぼで羽休めする姿を見た。

資料2-5

2日目
トキの森公園～環境省佐渡トキ保護センター野生復帰ステーション～トキのテラス～棚田視察

■環境省佐渡トキ保護センター野生復帰ステーション

トキの飼育・繁殖状況や世界でトキだけがもつ生態等について解説いただいた。事務室内には順化ケージを遠隔監視するモニターが数台設置されていた。餌やりの際は、宇治金太郎氏の声がけを真似て「来い来い来ーい！」と遠くから呼びかけながら接近する。トキは警戒心が強いので、ストレスを与えずに、警戒させることなく順化訓練している。

▸**質問**

環境省が指定するB地区は、『放鳥は行わないものの、他地域から飛来したトキが安心して生息できる環境整備を進める地域』。「いつまでに」といったものに基準がない。これからどのような取り組みをしたらよいか、助言いただきたい。

▸**回答**

いつ飛んできてもいいような環境と社会づくり。計画を立てて整備していただきたい。ロードマップを立てる等、いつ飛来してもいい環境、動機づくり。

■棚田巡回（小倉千枚田～岩首昇竜棚田）

小倉千枚田：ほ場は非常に急傾斜で細長いため機械が入らず手作業されている。島内外の個人や企業がオーナーとなり、農作業しているほ場もある。

岩首昇竜棚田：のぼりきるまで急勾配・急カーブが続き、変形田が多くみられる。

資料2-5

【取り組み2】江の設置

■目的

トキはドジョウやカエルを捕食する。

江があることで水場が確保され、水生生物が年間を通じて生息することができる。

江を設けることで、どのような生き物が生息するか、1年を通して観察する。

トキのえさ場づくりとして、実践する。

■設置場所

佐渡視察に同行いただいた有機農家のほ場。ほ場は中山間地域にあり、鳥海山麓の地域。

県立大学の調査によると、この地区にはドジョウ等が生息する。

ご自身ですでに30cmほど掘ってある。

対象ほ場選定巡回の際は、鳶が羽休めしていた。

杭を設置するほか、地元建設会社に依頼してさらに深く掘る。柵渠工を設ける。

資料2-5

【取り組み3】

勉強会の開催

秋田県立大学と合同開催

令和8年12月5日（土）

■目的

にかほ市のトキ事業を市民の皆さんに身近に感じてもらう。

農家の皆さんに農法と自然環境の関係について知ってもらう。

■内容

・自然環境や生態系保全と稲作の関係について（仮）

・地域の未来（仮）

・なぜ、にかほ市はトキ事業に取り組むのか？（仮）

資料2-5



トキとの共生を目指す里地（B地区）
秋田県　にかほ市